

高議第 76 号

令和 6 (2024) 年 9 月 3 日

高根沢町長 加藤 公博 様

高根沢町議会議長 神林 秀治

「防災士と議員とのカフェ・ド・ギカイ」で出された意見について

令和 6 年 7 月 26 日に開催した「防災士と議員とのカフェ・ド・ギカイ」において、「防災士の現状」や「防災士が活躍するための課題」というテーマで町内在住の防災士と意見交換をしました。

そこで出された意見を町の防災行政の参考にしていただきたく、別添のとおり提供いたします。

「防災士と議員とのカフェ・ド・ギカイ」のテーマに対する参加者の意見

テーマ1：防災士の現状

事前ヒアリングの意見

- ・資格取得後、地域の人々の役に立つような活動の場がないため、防災士としての経験が足りていないと感じる。
- ・町の補助金で資格を取得しているにもかかわらず、町の災害対応訓練に参加しない防災士がいる。
- ・そもそも町民に防災士が周知されていないため、認知度が低い。
- ・防災士個人の活動には限界があると感じている。
- ・各自治会に防災士がいることが理想だが、まだまだ防災士が少ない。なり手不足である。
- ・町内防災士同士の協力体制ができていない。また、自治体等においても防災士の活用法が不明確である。

当日の意見

- ・防災士としての活動の目的が不明確になっている。これを明確にしていくことで、防災士としての役割も明確化されると思う。そのためには、町からある程度でよいから活動の目的や方向性を示してもらいたい。
- ・現在、一部の防災士が町からの依頼を受けて、小中学校で「タイムライン」講習を行っている。今後の望ましい講習の形として、学校で保護者を伴いながら親子と一緒に防災や避難について考えるということができないか。
- ・防災では、公助、共助、自助の3つに分かれるが、特に「共助」について定義がいまいで具体性に欠ける一面がある。例えばだが、公助はここまでの範囲での支援、共助はこういう支援になる、自助はここまでの範囲の支援、というような説明が欲しい。町の方で、そのアウトラインを示してもらえないか。
- ・防災士となった多くの方は、社会に貢献したい、地元貢献したいという気持ちが前提としてある。その気持ちを生かし、具体的にどのような場で、どのように行動していけばよいかを考え、防災士が集まって話し合う場を設けることが必要ではないか。その意味から高根沢町防災士会のような集まりを立ち上げていく必要があると思う。
- ・行政区長を中心に地区防災計画の作成をした地域の話だが、防災士は中心的な関与をせず、あくまでもアドバイザー的な役割として計画に携わったようだ。また、地区で自主防災組織を立ち上げたときに、消防団の指揮や活動が実績として有効になったようだ。

テーマ2：防災士が活躍するための課題

事前ヒアリングの意見

- ・防災士が、スキルアップのための定期的な講習会や防災活動へ参加できるようサポートを行うことが必要。（さらなる学びの場の提供）
- ・地区防災計画の進捗状況が低いので、今後、防災士が関与して計画を作成していくためにもスキルアップが必要。
- ・防災士同士の情報交換ができるようフォローアップしてほしい。（ネットワークの構築・コミュニティの強化）
- ・防災士がアクセスできる町ホームページなどを作成するとともに、防災士から町民へ向けて情報発信をするシステムがあると良い。
- ・町防災士会や防災士会連絡協議会など組織の立ち上げが必要。
- ・防災士の組織化をするにあたり、最低限の規約などが必要。（ボランティア保険・自宅から会場までの交通費など）
- ・防災士にも防災無線戸別受信機を配布してはどうか。
- ・各地区、形式的に自主防災組織が設置されているが、これからは、実質的に活動していくことが必要。
- ・自治会加入者の減少（脱会）による地域の和の縮小をどうするかが問題。
- ・要支援者の共有が必要だが、個人情報取り扱いが難しく厳しい現状である。
- ・東日本大震災時の課題のレビュー（批評・論評）と防災士の補完。
- ・町民への認知度を上げるための防災士のアピールが必要。
- ・防災士へ町の各課からそれぞれ依頼が入るので、窓口の一本化をしてほしい。
- ・多くの町民に防災意識の向上とその継続が図れるよう、防災士がアドバイザーとなり、様々な活動や会議に参加し、講話できる体制を作してほしい。
- ・防災士が中小企業や商店などのBCP（事業継続計画）や商工会と連携をとることも大事。

当日の意見

- ・地元の住民の間では、誰が防災士なのか分からないという現状がある。今後の防災活動を地域で行っていくためには、防災士と地元とのつながりを深めたり、地元との信頼関係をいかに構築したりしていくかが今後の課題といえる。
- ・防災士の数を増やすこと。
- ・防災士の活動の周知をすること。
- ・防災士のネットワークまたは組織を作り、横のつながりを持たせること。
- ・防災士の認知度が低いので、町の広報紙などでアピールすることが大切。

その他

事前ヒアリングの意見

- ・毎年、小学校5年生と中学校1年生を対象にマイタイムラインの作成をしているが、親子で参加している小学校もあり、防災意識が高まってきていると感じている。
- ・防災士として、町民に防災意識を理解してもらうのは、非常に難しいと感じている。
- ・災害が起きる前にどう対応したらよいかを住民に知らせていくことが一番重要。
- ・防災備蓄品（テント、簡易ベッド、簡易トイレ〔テント込み〕、水など）の増設。
- ・映像や紙上の学びではなく、役場・警察・消防・防災士が協力してPTSD（心的外傷後ストレス障害）にならない程度の体験が子どもたちに必要。
- ・被害が最小限に抑えられるよう、災害に対する事前対策を徹底してほしい。
- ・高い理想を掲げるより、町民みんなが取り組みやすいことを見つけるべき。
- ・防災士へ防災訓練の指導、助言、協力を依頼。

当日の意見

- ・災害が起きる前にどんなことを準備しておくか等の啓蒙活動が必要。実際、災害が起きて自分がケガをしたら、他の人を救うこともできなくなるので、まずは、自分の命を守ることが大事ということを知ってもらう必要がある。また、枕元に履物を置いておく習慣なども大事。
- ・地域の人と顔見知りになっておくことが重要。
- ・非常時の持ち出し備品を各家庭に配ることも必要。
- ・災害が起きる前にどんなことを準備しておくか等の啓蒙活動が必要。
- ・実際に災害が起きた時に、どう動けばよいか分からないので、行政と連携してシナリオのようなものを作っておく必要がある。または、各自治会の総会等で説明し、情報を共有しておくことも大事。